

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800238		
法人名	医療法人 輝栄会		
事業所名	グループホーム トリニテ松崎		
所在地	〒813-0035 福岡県福岡市東区松崎2丁目7番21号		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JiyosyoCd=4090800238-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成29年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前には公園があり、また近くには多々良川の遊歩道もあり、日和の良い日には散歩に出かけております。またJR千早駅からも車で5分程の位置にあり、利便性に富んでいます。母体が医療法人ということもあり、医療面でのサポートも充実しており、緊急時の対応も万全です。また、小規模多機能ホームとサービス付き高齢者住宅併設の複合型施設ということもあり、小規模多機能などを利用しながら、更に介助が必要となればグループホームへの入所を検討することも出来、そのことは御本人様やご家族様の安心に繋がっているようです。

また施設で最期を迎える“看取り”の体制の構築にも力を入れており、ご利用者様が住み慣れた所で、また大切な方々に見守られながら、最期まで心豊かな生活が遅れるようスタッフ皆でケアにあたっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市東区内の博多区と隣接する場所にある当ホームは、最寄りの駅から遠くなく、訪問しやすい環境にあります。建物は、小規模多機能型居宅介護とサービス付き高齢者向け住宅との複合型施設となっており、グループホームはその建物の2階にあります。目の前には公園があり、近くには多々良川が流れており、利用者は河畔公園などへの散歩をゆつくり楽しまれています。また、月に1度は「生け花」や「お茶」、「習字」などが行われています。複合型施設である為、他のサービス利用者との交流や施設行事に訪れる地域の方との交流の機会もあります。

利用者が安全に安心して入浴出来るように、器械浴や2名での介助が行われていたり、排泄の向上に向け「寝たきりオムツにしない」の気持ちを持ってケアに当たられていたり、スピーチロックー掃月間を掲げたりしながら、利用者が快適に安心して生活が送れるように、職員は一丸となって頑張られています。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及びトリテ独自の理念をフロアと事務所内に掲示し、毎朝の申し送り時にスタッフ皆で唱和し、理念の共有と実現に取り組んでいる。	現在の理念は、開設当時から掲げられています。全職員への意識付けの為に、毎朝唱和が行われており、共有して仕事が行える様に努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月毎の運営推進会議には必ず松崎2丁目自治会長様及び民生委員様へ参加を依頼し、情報共有を図っております。また夏祭りや清掃活動の参加、トリテでのバザーや作品展覧会を通し、地域の方との交流と施設の開放を図っております。しかし日常的な交流という意味では希薄なように思う。	地域の行事へ参加したり、ホーム(施設)の行事へ招待したりされています。自治会への参加もあり、ホームでの災害訓練には、地域の消防団の参加もあっています。施設内には地域交流室も設けられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方々へ現場で起こった事故・ヒヤリへの対応事例を紹介し、また日常活動の報告等を通して、認知症の方の支援方法を発信しております。毎月発行しているユニット新聞では”認知症について”というコラムをもうけ、認知症をひろく知っていただけるよう身近な事例等を通して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様からご意見ご要望を賜り、また自治会長様や民生委員様、他事業所の方と情報交換を行うことで、事業所としての今後の取り組み方について考える良い時間となっている。	会議は定期的開催されています。行政及び地域住民との情報交換や家族からの意見等の汲み上げなど、運営に生かすようにされています。消防団の方も参加されて様々な意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの管理者様や社会福祉協議会の担当者様に必ずご参加いただき、トリテの現状をお伝えしご助言頂いている。また、市の研修には積極的に参加するようにしている。	ホームからの相談に対して助言等が行われ、研修やその他の行事の際にも話が出来関係が構築されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに則し、現在身体拘束は行っていない。また施設内研修を通して身体拘束廃止を職員に周知徹底している。事故防止及び身体拘束廃止委員会は毎月1回行っており、施設内の事故やヒヤリハット事例について把握、事例検討も行っている。	身体拘束廃止委員会が施設内に設置され、ホームからも各ユニットから2名ずつ参加されています。様々な事例検討を重ね、全職員で身体拘束防止に向けて取り組まれています。施設内の研修も年に数回開催されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も職員1名を県主催の高齢者の権利擁護に関する研修に派遣、受講後ユニット内で伝達講習会を行うなど、高齢者の虐待防止、権利の擁護について職員の知識と意識の向上に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、日常生活支援事業や成年後見制度を利用されているご利用者様がおり、管理者はもちろん職員全員が実体験を以て周知している。	現在、各ユニットに1名ずつ成年後見人制度を活用されている利用者がおられ、管理者はもちろん職員も理解に努められています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にかかる費用や毎月の請求については料金表を用いて具体的に説明をし、また医療費受診代なども項目を設けて分かり易く提示している。これまで契約や解約に伴うクレーム等は発生していない。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様より頂いた声は業務日報に記録として残し、申し送り時に口頭で伝達するようにしており、皆が共有できる様に努めている。	施設全体の意見箱が1階に設置されています。家族から出た意見や要望については、その都度業務日誌へ記載して職員全体で共有し、取り組みについても全員で対応するようにされています。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を開き職員の意見や提案を聞いており、改善すべきは適宜改善しております。当日参加できない職員に関してはあらかじめ意見を聞いておき、議事録を通して全員で情報共有が出来るようにしている。	各ユニット毎に月に1度、会議が行なわれています。その他にも職員の意見や要望を聞く為に時間を作るなどされています。話は処遇に関する事が多くあります。意見等は全職員で共有して業務に当たるようにされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを用い、半期に1度目標の設定・見直しを行っている。そこで管理者と面談を行い、自己評価と照らし合わせたうえで、職員一人ひとりと管理者側の意見のすり合わせを行っている。昇給は年一度春の査定で決定、労働時間等契約事項に関しては状況に応じて適宜考慮し必要であれば変更している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女、年齢に関係なく募集・採用している。募集・採用に関しては法人側が統括しており、その時々的人员配置状況に応じて所属を決定している。所属の決定に関しては現場管理者の意見も考慮され、経歴・職歴また保有する資格をかんがみ、業務を分配し、各人の能力が發揮できるよう努めている。	職員の採用に関しては、法人本部にて行われています。年齢や男女の差などなく採用が行われています。職員が希望すれば、資格取得に対しても法人側がバックアップされています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者権利擁護の研修に参加させたほか、伝達講習の実施で職員全体への周知徹底を図っております。	管理者は、年に1回は必ず権利擁護の研修会に行かれています。研修には全職員が交代で行ける様にされています。研修後には、全職員への伝達講習が行われています。全職員で人権教育、啓発活動に取り組まれています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加をさせるようにしています。また法人の院内研修や施設内の研修を年間を通して行い職員の資質向上に努めております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に登録し研修会や交流会の場へ参加している。他事業所の運営推進会議への参加もしていたが、最近はやや参加できないので、今後は積極的に参加し、他事業所との横のつながりを構築し、情報交換を通してサービス向上に努めたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者だけに任せるのではなく、職員一人ひとりに担当利用者を割り振り、細やかにアセスメントを取り、ご利用者様の可能性を引き出しながら、かつケアプランが単なるプランにならず、実現可能なものとなるよう、工夫している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から時間をかけてこれまでの生活歴や暮らしの情報、悩みや相談を聞いている。また一度ではなく何度も重ねてヒヤリングし、ケアの参考にすることは勿論、ご家族様の満足や安心につなげるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は管理者と計画作成担当者が主に生活歴や現状についてのヒヤリングを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を引き出す工夫や混乱させない工夫をすることで、認知症の方でも暮らしやすく、かつ出来る事を増やすことを目指している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回は家族会の意味も込め、忘年会と納涼会を開催している。また外出レクやお誕生日会などには必ずご家族様にもお知らせし、ご参加を促している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レクとして自宅への帰宅支援を行っている。今後も馴染みの関係や場所との関係を大切に、家族だけでは実現しえないことを介護専門職の強みを活かして個別対応していきたい。	外出レクリエーションの一環として、自宅へ戻る機会を設けてあります。利用者の中には月に2回週末を家で過ごす方等がいらっしゃいます。また、馴染みの方の面会もあり関係が途切れない様に、家族と共に協力して取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションには必ず職員も参加し、声掛け気配り目配りし、皆様が参加し孤立することないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も病院への面会やご家族様への連絡などを通して関係性を保つよう努めている。そのこともあり、1名の方が退院後再入居がかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が故、本人の思いを聞き出すことは難しい場合も多々あるが、ご家族様からの聞き取りや日常の動作、生活歴などを鑑み本人様に寄り添う努力をしている。	利用者と交流を図る際、意向等が聞けるように語り掛けに工夫をされています。意思疎通困難者には家族やアセスメント・生活歴等の情報から思いを汲み取るように努められています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントでは職員全員が個々が持っている情報を全部書き出し、それを基に担当を中心として全員でケアプラン作成をするようにしている。ご家族様への聞き取りも担当だけでなく、全員が行う仕組みにし、行った場合は詳細に記録し情報共有するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や水分量、排泄の状況は詳細に記録しており、その都度NSIにも報告助言してもらい、健康管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人はもちろん、ご家族様にも計画段階で必ず意見を聞き、反映させる努力をしている。介護職だけでなく、必要であれば看護師やドクターにも助言してもらっている。	介護計画は、どちらのユニットも計画作成者にて作成されています。情報収集やモニタリングに関しては、全職員にて取り組まれています。どんな小さな事も職員間で共有できる独自のやり方が行われています。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録をするように職員には意識付けている。またご利用者様が発した言葉や態度を正確に記録するなど、客観的な記録を重視し、職員間で情報共有するようしている。			
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご利用者様のご要望には出来る限り対応しようと日々頑張っている。ご家族様との毎日の交換ノートや帰宅支援など、ご本人様、ご家族様と一緒に計画立案し、実現させてきました。			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動や夏祭り、バザーなどでは地域の方々と交流はありますが、日常的な関わりが希薄である。			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院がある方に関しては受診のサポートをしている。他の方は千早クリニック往診にて日常のフォローをしている。	以前から受診されている医療機関を利用されています。内科・歯科の往診だけでなく、皮膚科の往診も行われています。母体が「医療法人」という事で、利用者・家族の安心感も大きいようです。受診はホームにて対応されています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきがあれば看護師に相談し、必要と判断されれば受診の介助もしている。看護師の不在時は他の部署の看護師に応援を依頼したり、電話連絡にて状態を報告している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院ということもあり、入退時の情報交換はスムーズに行えている。また入院中はこまめに面会に行き、遠方のご家族様に状況を報告するなどしている。退院時はメンテラに参加するほか、ADL確認を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	継続した意思確認やご家族との密な話し合いの場が持ててない。	現在に至るまで「看取り」の実施はあっていません。利用者・家族からは希望がっており、今後取り組む予定があります。現在、ターミナルケアは行われており、医療機関とは24時間の連携体制が築かれています。	看取りに向けて、医療との連携だけではなく、家族との話し合いや職員に対する研修及びケアの在り方などについても、時間を掛けて取り組まれることを期待します。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の研修を行ったほか、緊急連絡網は職員の異動などがあつた際はすぐに見直し、その際に職員に緊急時対応・応援要請などについて職員間で情報共有している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で防災訓練を行い、その際にはご利用者様にも実際に避難して頂き、訓練の為に訓練にならないようしている。今年度からは地域の方とも合同で防災訓練を行っています。	ホーム単独ではなく、法人の施設全体で避難訓練を行われています。火災だけではなく、様々な災害に対する防災マニュアルが策定されており、地区内での総合的訓練にも参加され、安全な生活を送れる様に努められています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け・介助に努めている。また職員間でも利用者対応に関して指摘し合える職場環境である。	個人個人を認める様にし、利用者の意思を尊重する様にケアに当たられています。好きな事に取り組んで頂くようにし、行動抑制しないようにされています。職員の不適切な言葉かけには、その都度注意し合える様にされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選択・決定できるような声掛けをするよう、職員皆心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて一日を組み立てるよう心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を大切に、同じような格好をするのではなく、色々な洋服を着るよう支援している。またご自分で選べる方に関してはご自身の好みを尊重している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等で手作りする時は材料を切って頂いたり、出来る限り参加していただくようにしている。	食事は業者委託ではありますが、完成品をそのまま提供するわけではなく、味付けや形態はホームにて行われています。また、月に1度は手作りの食事を提供され、メニューも利用者で考案されています。職員と利用者が一緒に楽しめるように食事を摂られるなど工夫されています。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい方にはゼリーを作って提供したり、食が細い方には間食を用意し食べて頂いたりしている。また食事摂取量が減ってきている方に関しては補助食品の導入などもドクターに相談している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨いて頂き、その後で職員が仕上げ磨きと舌磨きを行っている。誤嚥が心配な方は吸引機を使った口腔ケアを行っている。また別府歯科往診も継続している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムをつかみ本人様への声掛けを行う他、紙パンツから布パンツ+パットになるよう働きかけを行ったり、下剤に頼らない排便を目指し水分摂取を励行するなど、職員皆で意識して取り組んでいる。	排泄チェック表が活用されています。個人のリズムに合わせて言葉かけを行う様にされ、トイレにて排泄が行われています。「寝たきりオムツにしない」という気持ちで対応されています。布パンツにパットを併用する等自立支援に向けたケアを実施されています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取励行。また歩行訓練や体操など身体を動かし、自然な排便を促している。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方ばかりなので、一日置きに入浴できるように入浴スケジュールを立てている。シャワーや清拭ではなく、2人介助や機械浴など、その方に応じた入浴介助を常に考え、実践している。	各ユニットにて時間は異なりますが、毎日入浴は出来ます。どの利用者も最低週に3～4回は入浴をされ、入浴剤を使うなど工夫されています。状況に応じて2名での介助等が行われ、安心して入浴できる様に努められています。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の夜間の睡眠状態や日中の状態を確認して適宜午睡を取り入れている。就寝時間についてもある程度のスケジュールはあるが、ご本人様の意思を尊重し、ご本人様が寝たい時に寝、起きたい時に起きるように職員は配慮している。			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルで管理しており、適宜確認できるようにしている。また処方薬変更時には業務日報と口頭の申し送りにて伝達し、職員ひとりひとりがきちんと把握するよう努めている。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬりえやドリルなど、ご本人様の得意な事に沿ったレクの提供は毎朝行い、皆さま熱心に取り組んでいる。飽きのこないようにレク素材も毎回検討し準備している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、晴れた日にはなるべく戸外に出て、外気浴をするようにしている。また季節に合わせた外出レクも企画し、その際にはご家族様にも声掛けし、参加を募っている。	季節にもよりますが、暖かくなると近くの公園や川への散歩に行かれています。また、年間行事として花見や初詣等に行かれ、買い物へも出かけられています。家族の協力・応援も得られています。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などの買い物の支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙を書く援助も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をご利用者様と一緒に生け、廊下に飾っている。また大きく書いた壁掛けカレンダーを設置したり、空調には頼らず、日中は定期的な換気も兼ねて窓を開け、外気を感じていただいております。カーテンも開け、外光も取り入れて昼夜の区別も図っている。	月に1度は生け花が行われています。協力して季節感を出すように壁飾りなどを作成されており、大変明るく楽しいリビングになっています。明るい自然光が入り、個人個人が思う様に過ごせる空間もあり、広く快適なリビングになっています。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士でお話しが出来るよう座る位置を考慮している。またトラブルになりそうな場合は職員がすぐに間に入り、良好な関係の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の状態に合わせて職員の介助(特に体交や移乗)の利便性を考えベットの配置などはレイアウトはするが、それを除いてはご本人様ご家族様にお任せし、快適で居心地よいものにしてもらっている。	居室は、自宅から持って来られた物等を家族と本人でレイアウトされています。持ち込みに関しては火気厳禁とされています。温度・湿度は職員にて管理されています。職員・本人・家族との相談にて居心地の良い居室を提供出来る様に努められています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに大きく名前を書いたり、食卓に目印をつけたりするなど、その方々に合わせた「わかる」工夫は常に試行錯誤している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	トリテ独自の理念をフロア内に掲示し、理念の共有、実現に取り組んでいる。具体的には三位一体と掲げているので、公園清掃や地域行事参加等を通して理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヵ月毎の運営推進会議の開催、地域行事(夏祭り、清掃活動)への参加。秋には地域とトリテでバザー、作品展示を行い地域との交流が充実しつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々へ対応事例紹介を行っている。また、地域行事を通して支援の方法を地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様やご家族からのご要望、また地域の自治会長、民生委員の方や他事業所の方などと意見交換を行っている。より有意義な会議とするため、併設の小規模多機能と合同で運営推進会議を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ地域包括支援センター、社会福祉協議会の担当者様に参加頂いている。市が開催している研修には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権研修「身体拘束及び虐待」にユニットから2名が参加。「スピーチロッカー掃月間」を設け、声かけ等の改善に努めている。玄関の施錠も極力開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	各種の「人権学習」や「人権啓発研修」に積極的に参加し、「虐待」は絶対に起こさない、見逃さない、ことを機会を見ては徹底するように努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際にご利用者が活用している。また、制度紹介のパンフレットを準備し、玄関に設置している。施設内研修を通じた知識修得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約・退去時、料金等改正時には、利用者、ご家族等に十分説明し、納得頂けるよう常に心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望、意見等は業務日誌等を通して申し送りを行い、職員間で話し合い、反映させるよう努めている。家族面会時には声かけ・挨拶を通して意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心掛けている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議で職員の意見、提案を聴く機会を設けている。また、業務日誌に連絡・相談事項を設けて文書での意見を聴くようにしている。その他、定期的に声掛けを行い意見を聴くように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「目標管理シート」を用い、職員一人ひとりが目標をもち、実現できるように支援している。定期的に面談を行い、職員の希望や提案を聞くようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は男女とも就業し、年齢層も幅広い。性別や年齢による差別がないよう、むしろ互いに補完・助け合いながらご入所様に満足いただけるサービスの提供に努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の各種研修の折に、人権の重要性とプライバシー保護については確認している。さらに、人権教育・啓発活動の充実を図るよう、折に触れ、確認し合っている。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修、法人内の院内研修への積極的な参加を促している。また、本年は施設内研修に取り組んできた。本年の実績と反省に立ち、さらに職員の資質向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ登録し、他事業所との意見交換の場に参加している。職員の参加も促進していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当制をとり、日頃からのコミュニケーションに“笑顔で”をモットーにしている。何より、安心して和やかな日常を過ごしていただけることに全職員のチームで取り組んでいる。計画作成担当者は必要に応じて、担当者とともに本人からの情報収集にあたっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当制を活かし、家族面会の対応などに第一義的対応をしている。そのためにも、ご家族に対する挨拶、電話での対応などに心を砕けるチーム作りに努めている。計画作成担当者は必要があれば、担当者と一緒に家族の声を聴くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集後はアセスメントを行うが、素案を提示の上で、職員間で話し合い優先すべきサービスを決定し、ケアプランに反映する。本人・家族の納得を得て、サービス提供を行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身状態にもよるが、食事の準備、居室の清掃、洗濯物をたたんでいただくなど、一方向の関係でない共助の関係を築くように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には挨拶・声掛けを行い、現在の心身状況などをお伝えしている。また、行事には案内・声かけを行い、家族との絆を重んじている。必要に応じて、家族へ依頼し、本人と家族との時間作りをサポートしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から聴取したことや、家族からの情報をもとに、本人にとって馴染みの場所を訪問したり、自宅への外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、レクリエーション等には声掛けを行っている。必要に応じて職員が介入することがあるが、お互いが好きなことを言え、笑いあえる雰囲気作りをしている。場合によっては一人で過ごす時間が必要な方がいるが、こまめな声掛けを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に立ち寄れるように声掛けを行っている。利用終了となっても本人や家族の経過を確認し相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や暮らし方の希望を聞き取り、ケアプランへ反映させている。困難な場合は家族からの聞き取りと職員間で本人が何を望んでいるかを話し合い、その人らしい暮らしの実現へ取り組んでいる。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を本人や家族へ聴取し、フェイスシート、アセスメントシートに記載して情報の共有化を図っている。何気ない会話からでも利用者を知る為の工夫をしている。また、利用者担当を配置し、より詳しい情報収集に努め、その人らしい暮らしを過ごせて頂けるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル確認や食事量、利用者の表情や言動などから心身の変化を逃さないように努めている。何気ない気づきを職員全員で共有できるようにスタッフ間の声掛けや申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が何を望んでいるか、必要な支援は何かを明確にするために計画作成時にはケアマネを中心に複数チームで話し合いを行っている。また、家族の要望があればそれもカンファレンスで取り上げ、チーム内でディスカッションし、計画に反映している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をするために、利用者の長期計画は何かを把握し、それに対しての気づきを記録をしている。職員間ではミーティング以外でもこまめに話し合い、業務日誌、個別記録を通して情報共有を図っている。さらに計画に反映するよう努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からのニーズに対してはできる限り柔軟に対応するように努めている。ご自宅への外出支援、受診支援などを行っている。職員間ではニーズに対してどこまでできるかを話し合い、実現可能な範囲で本人や家族のサポートを心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への清掃活動や夏祭りへの参加、地域と施設との共同バザー開催、作品展示など地域資源、施設の資源を探りながら利用者が地域の一員であることへの支援が形になり始めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度かかりつけ医の往診がある。それ以外にも、法人母体の病院であるため受診の必要性を施設看護師と確認し、適切な医療を受ける体制を整えている。本人、家族の希望も大切に、施設としても家族の希望がない場合でも必要性が認められれば、その旨を家族へ伝え、受診の手配を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者への気づきを細かく看護師へ報告、相談している。報告を受けた看護師は利用者の状態を確認し、適切な医療サービスが受診できる体制をとっている。これら一連の過程は業務日誌、個別記録へ残すことで情報共有をしている。また、看護師不在時は電話連絡で状態を報告し適切なサービスが受けられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時は病院関係者、担当医や看護師等と情報交換を行っている。入院中はこまめに面会へ行き、状態の確認を行う。退院がきまれば、退院前の情報収集を行う為に、家族、担当医、看護師等とカンファレンスを行い退院後における適切な支援ができるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望されている利用者がおられる。要望に沿えるような体制を整備している段階である。当施設での看取り事例がないため、他事業所などの実践例を学ばせて頂いている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設後に1次救命処置の研修を行った。法人内での救命処置研修などにも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年2回防災訓練を行い、年1回は夜間想定で実施している。AEDも設置、緊急時食料備蓄は地域住民分も含めて100名規模で備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け、介助に努めている。利用者ごとの状態を把握して、適切な声掛けを行うようにしている。「スピーチロッカー掃月間」を設定し、丁寧な人格尊重の声掛けに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が選択、決定を行えるよう声掛けをしている。好きなこと、自分の思いを言える雰囲気作りをしており、一方的な支援ではなく利用者が望み、決定できるような支援を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で行うことを決めてはいるものの、本人の意思を優先する声掛けを行っており、尊重するように努めている。何をしたいか、何を食べたいかなど要望を聞き、出来るだけ希望に沿うような支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧したい方は化粧して頂き、洋服を買いに行きたい方は買い物支援を行っている。女性の方はネイルをする方もいる。男性の方は髭剃り、鼻毛のカットを行っている。月に1回訪問理美容があり、カラーやパーマなどは利用者希望で行っている。外出時には衣服のコーディネートにも心がけ、その際には、本人の意向を尊重している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは利用者の残存能力を活かし職員と一緒にやっている。定期的に手作り料理を設け、準備、下ごしらえを手伝ってもらっている。職員も利用者と同じ物を同じ食卓で食事している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から配食は栄養バランスがとれている。食べる量は利用者によって変えている。嚥下能力に合わせ、刻み食、おかゆ、とろみなども提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。特に介入が必要な方は職員が支援するが、できる場所は本人で行って頂いている。定期的に歯科往診があり、清潔保持、口腔内の機能維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが分るように排泄チェック表で管理している。排泄リズムから本人への声掛けを行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の管理を行い、必要に応じてはぶ茶を提供している。歩行や朝の運動を奨励し、自然な排便となるよう取り組んでいる。また、看護師管理のもとでラキソベロンやヨーピスなどを使用する場合がある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね週2～3回程度入浴を行っている。拒む方は時間を変更して対応している。お風呂が好きな方が多いので、出来る限り希望に沿うように努めている。昼から夕方にかけて入浴をして頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々によって変化するので、昼寝は自由にして頂いている。必要に応じて、自室で休んで頂いている。夜間は、できるだけゆっくり安心して休めるように昼夜逆転しないように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報をまとめており、薬の目的や副作用が分かるよう管理している。処方変更等は業務日誌やケース記録を通して情報伝達し職員全員が変化の確認が出来るように心がけている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの出来ること、好き嫌いが異なるので評価を行い、本人がしたいことをして頂くような声掛けをしている。プランターの手入れや水やり、居室掃除、ぬり絵など何かしら役割をもつていただいたり、趣味嗜好などに取り組めるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体的な外出や個別外出支援を行っている。天候や利用者の体調に合わせ、玄関前や近隣公園へ散歩を行っている。希望当日に外出できないこともあるが、利用者要望を聴き、本人と職員が話し合いながら日程を決めて買い物にも出かけている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、本人と家族からの委任をもって管理している。本人の希望に応じて、自由に使うことができるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望に応じて、電話を使用して頂いている。手紙や年賀状のやり取りは大切な人との繋がりになるので、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の席を準備し、くつろいげるように工夫している。共用部の廊下や棚には季節を採り入れた花や飾りを用意し、利用者に季節を感じて頂けるようにしている。居室扉には分り易いようにお手製の名前を表示している。また、作品の展示等もユニット内はもちろん、施設内の共用部においても行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いは尊重されるように、声掛けを行っている。日によってのんびりしたい時はのんびりして頂けるような配慮をしている。気の合った利用者同士会話が弾むよう座席にも考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂けるよう家族に協力をお願いしている。本人が居心地よく安心して過ごして頂けるよう写真や家具、ソファなどを持ち込んで頂いている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることが異なるので、評価を行ったうえで、利用者にして頂くこと、職員が支援することを適宜判断して行っている。基本は、安全な環境の下、安心と豊かさを感じて頂ける居住空間づくりに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		